

森林公園

市北西部の山根地区にあり、松林、雑木林、湧水や溜池など、豊かな里山の自然に恵まれた公園です。昭和43年明治100年を記念し、森林公園の整備を開始しました。昭和57年には、恐竜等模型14体が完成。2004年には地上波デジタルTVの送信所が設置された。水戸市に生まれた子供は必ずと言っていい程訪れる。

楮川(こうぞがわ)ダム

水戸市の上水道は明治以降那珂川から直接取水していたが、那珂川が渇水になると下流から海水が遡上するために不安定に陥ることが度々あった。また、人口の増加に伴い水需要の確保が要求され、藤井川ダムの他に新たな水源を確保する必要に迫られた。昭和60年に完成。楮川の自流水では湛水が不可能であった。このため水戸市渡里町的那珂川にポンプ場を建設して取水、トンネルを通してダム湖に貯水するという方法を取った。

浜見台霊園

水戸市営の公園墓地。総区画数6,768。宗派不問。現在新規分譲は行っていない。返還された墓地等を対象に、随時受付している。水戸市民のみ。永代使用料12㎡で100万円。

二十三夜尊桂岸寺

大悲山保和院(だいひざんほわいん)桂岸寺と言う。元禄時代、徳川光圀公が寺の庭を愛されて保和園と名付けられたのが始まりと言われている。

昭和初期、池に築山を配した純日本庭園になり、名前も「保和苑」となった。昭和30年代、苑を拡張してあじさいの植栽が行われた。初夏になると約30種類6,000株のあじさいが咲き競い「水戸のあじさいまつり」が盛大に開催される。

また、保和苑と周辺史跡を回遊する「水戸のロマンチックゾーン」も人気を集めている。

回天神社と水戸殉難志士の墓 (水戸市指定史跡)

安政の大獄、桜田門外の変、坂下門外の変、天狗党の乱、会津戦争、以後国のために殉じた1,785名の水戸藩士を中心とした志士を祀る。社名は藤田東湖の著作『回天詩史』に由来する。神社の前後に、一定の形の墓石371基が、あたかも行進しているように整然と並んでいるが、これは幕府軍との戦いで殉難した烈士の墓で大正3年に建てられたもの。

鯨蔵(ニシンくら)とは

加賀藩に降伏した天狗党は、同藩から厚遇されたが、身柄を幕府に写されると処遇は一変し、16棟の鯨蔵に收容された。この蔵は当時は敦賀市松原神社の北島の海に近い場所に並んでいたと云う。

天狗党はこの中で、食事は日に握り飯一個、トイレは蔵内の樽、手枷足枷、首には板の最低待遇の後処刑された話が残っている。現在1棟が松原神社に、一棟は水戸の回天神社に移設されている。

常磐共有墓地(水戸市指定史跡)

徳川光圀公は寛文6年(1666年)、水戸藩士のため上市に常磐共有墓地、下市に酒門共有墓地を創設した。その理由は、当時水戸藩の士民の喪祭が神仏まじりまちで往々にして誤った習慣にとらわれ、無駄な費用に苦しめられているのを見て、これを正しく指導する必要があるためであった。ことに藩士のためには、これら2ヶ所の墓地を無料で使用させるほか、「喪祭儀略」という書を作り、儒式を取り入れた簡素な喪祭の仕方を教え、墓碑も一定の形と大きさを定めて、ぜいたくに流されないようにした。このため藩士は後世までその恩恵に浴した。

墓地内には、“水戸黄門”でおなじみの「格さん」のモデル安積澹泊(たんぱく)をはじめとする彰考館の学者達、後期水戸学の中心をなした藤田幽谷・東湖父子、豊田天功・茅根寒緑や、桜田門外の変・坂下門外の変などに参加した烈士の墓が建ち並び、さながら水戸藩の歴史に接する思いを深める場所である。

いまさらながら借楽園

100種3000本の梅が植えられている。借楽園部単体で約58haうち本園が約13haあったが、平成11年、隣接する千波湖を含む千波公園及び緑地帯とあわせて園の名称を「借楽園公園」とし、面積の合計を300haに拡張した。正式な入り口である旧来の表門は、敷地の北西側に位置しており、この表門は黒塗りであることから黒門とも呼ばれている。

水戸芸術館 (英称: Art Tower Mito)

平成2年に開館した現代芸術の複合施設である。設計:磯崎 新。
初代館長は音楽評論家の吉田秀和。吉田の後任として2013年4月より同館専属の水戸室内管弦楽団の音楽顧問である指揮者の小澤征爾が二代目館長に就任した。

水戸市中心部に建つこの施設は、中心市街地活性化の意味も込めて、敷地狭隘のため移転した水戸市立五軒小学校の跡地に市制100周年記念施設として建設された。発案者である当時の佐川一信市長(故人 本校昭和34年卒-中央大法-早大院法学研究科)が文化によるまちおこしを意図し力を入れたため、市の年間予算の1%(約9億円)を活動資金にする制度を日本で初めて導入した。建設費は103億5,584万円。当時佐川市長に対してはかなりのバッシングがあった。

アートタワーについて

タワーはチタンの正三角形パネル(一辺9.6m・57枚)を組み合わせてらせん状に天に伸ばした高さ100mであり、冬には市民の手でイルミネーションが行われる。この形状はDNAのらせん形状である。



水戸二中～三高～一高～ロマンス坂周辺

今、その辺は白壁と門だらけになっている。

水戸市は歴史的まちづくり構想に基づき、三の丸から二の丸、本丸周辺を江戸時代の景観に近づけようという事を行なっている。

とにかく「門」が増えています・・・

室生犀星 「蝶・故山」
羈旅歌より

水戸

水戸

水戸

秋ふかき駅のべに

人は水戸水戸とは呼ばへり

けふ利根川を越え来り

哀しきこの駅のべに降り立ち

くちびる寒く詩人とともに

水戸水戸とは呼ばへり。

詩を口ずさむような趣味はないんですが、
室生犀星という詩人を教えてくれたのは
世界史の荒井先生でした。
世界史の授業中に話が脱線し
この詩を覚えてくれました。
なぜか覚えています。